

【BtoBリサイクルペットボトル】

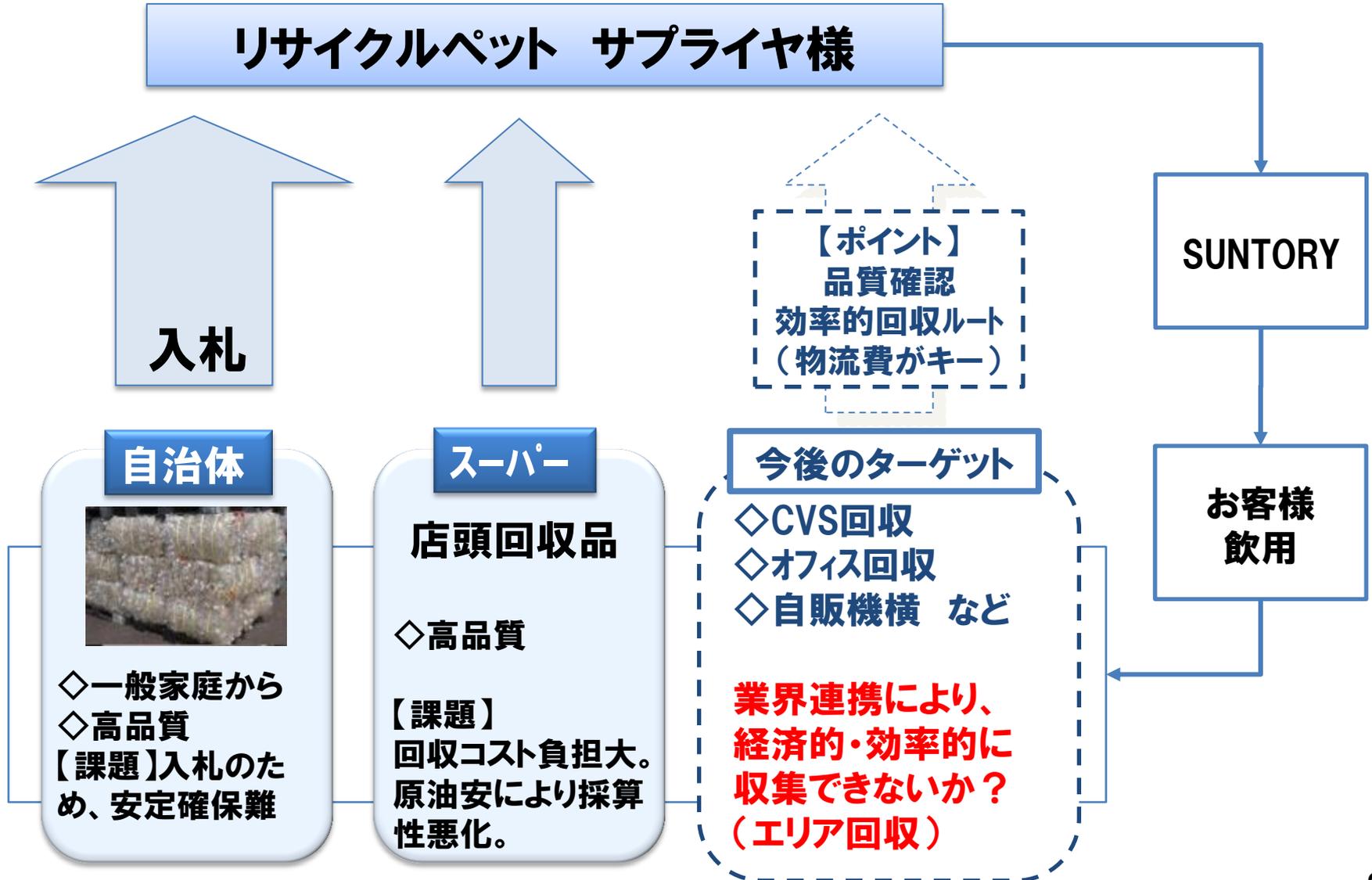
使用拡大に向けた取組と検討すべき課題

サントリービジネスエクスパート(株)

2016/01/26

リサイクルPETの使用拡大にむけて

BtoB向けPETボトル回収網の拡大(品質・数量・コスト)



台場パイロット実験構想

台場エリアのオフィスビルで1日にどれだけボトル収集し、TPRへ運搬できるかの検証
(数量が集まらなければ、品川エリアまで拡大も視野)



<平成27年度 東京都実証事業>

先進企業と連携した持続可能なリサイクル事業モデル

日本環境設計様資料より

モデル事業採択結果

日本環境設計
JEPLAN/Japan Environment PLANNing Co., Ltd.

概要

先進企業等と共同した「持続可能な資源利用」に向けたモデル事業の実施
 優先的課題に対する取組を中心に、先進企業等と共同したモデル事業を公募・実施する。これにより持続可能な資源利用の先進的事例を都内につくるとともに、その成果を広く中小企業等に情報提供していく。
 都は、このモデル事業の成果を踏まえ、多くの企業の取組を促す施策や新たな仕組みづくりを検討していく。



弊社提案は今年度モデル事業として採択いただきました。

日本環境設計株式会社 JEPLAN/Japan Environment PLANNing Co., Ltd.

出所：東京都環境局HP (<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/>) より



- ◇リサイクル動線づくり 台場エリアの企業の廃PETを収集
- ◇分別ルールの一統化の活動として検討

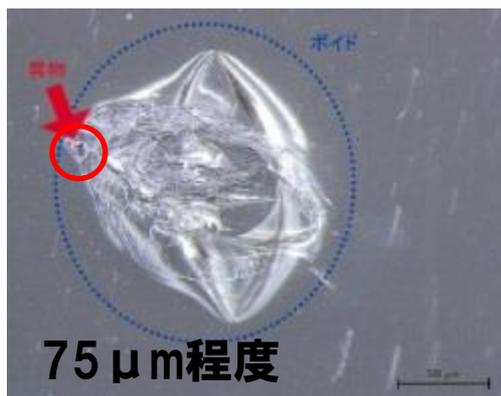


**エリアを限定した回収モデルの実証実験を通して、
オフィス、商業施設などの廃PETの品質を確認中。**

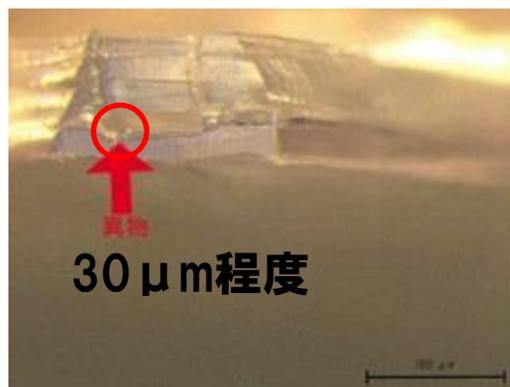
昨年末、回収方法が起因と疑われるBtoBペットの品質異常が発生。
(ペットボトルの成型異常トラブル)



ボトル表面



ボトル断面



不良ボトルから
ガラス粒子を発見

高圧エアでペットボトルを成形する際にバースト(破裂)が頻繁に起こるという現象

リサイクルPETのトレーサビリティ調査の結果、
PET・ガラス瓶などを混合回収している自治体の回収ベールから
作られたリサイクルレジンでトラブル多発の傾向が見られた

消費者



自治体



回収PET (ペール)



自治体ごとにルールあり

一部の自治体では
PET/ガラス瓶が混合回収されている。

消費者排出時に分別されていても
回収時に混合されている場合も

洗浄・
メカニカル
処理
プリフォーム
製造



プリフォーム
(PF)

成形



ペットボトル

一部の自治体からの回収ペールは
BtoB向け原料への使用を見合わせている。



引き続き、当社は高度水平リサイクルであるBtoBの拡大を通じて、持続可能な社会システムの発展・推進に貢献していきたいと存じますので、

ガラス・PETを混合回収すると、リサイクルボトルでの使用ができないといったことも、分別ルールを検討する際には、ご考慮頂きたく存じます。

(課題) 廃PETの効率的回収に向けて

現時点で物流コスト・回収量に関する課題は残っている状況。

今後、「効率的回収モデルの実証」のため、“家庭用も含む”エリアでの集中回収の経済性の検証を(費用は当社負担で)実施できないかと希望しています。

当社が実施する上では、

① 廃掃法

② (家庭用含む) 検証地域からの合意

が課題となりますので、現在の台場での実証実験のように、自治体の皆様からの許可・協力をいただければ幸いです。

持続可能な社会システムの発展・推進にサントリーは積極的に取り組んで参ります。



以上